

平成30年度

伊勢崎地方卸売市場 水産・青果・中央棟
耐震診断業務委託

報告書

施設名称 伊勢崎地方卸売市場 水産・青果・中央棟

伊勢崎地方卸売市場
水産・青果・中央棟
耐震診断業務委託
平成30年度

発注者署名欄

受注者署名欄

発注者: 伊勢崎市 市長

ウイルス対策ソフト名	ESET
ウイルス定義日	H31.03.04
フォーマット形式	ISO9660(レベル1)
ウイルスチェック日	H31.03.04

伊勢崎地方卸売市場 水産・青果・中央棟
耐震診断業務委託業務

耐震診断報告書

施設名 伊勢崎地方卸売市場 水産・青果・中央棟

R29
R. S. S.
R. A. S.

P. 222
P. 222

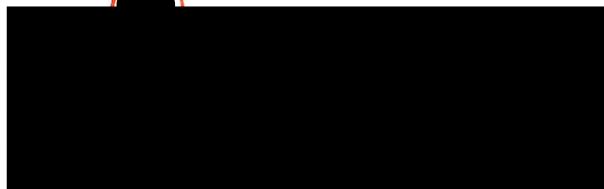
受託者



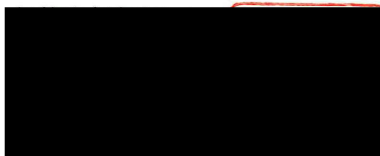
担当事務所



診断者



協力事務所



P. 25
伏見

判定結果通知書

平成31年2月18日



平成30年11月29日 付けで判定依頼を受けた耐震診断等判定については、建築物耐震診断判定委員会において審議した結果、下記のとおり判定したので、耐震診断等判定業務規程第17条により通知します。

建築物名称 及び棟名称	伊勢崎地方卸売市場 水産・青果・中央棟
建築物所在地	伊勢崎市日乃出町702番地 地内
耐震診断等業務 発注者氏名	
診断(設計)者 住所・氏名	
判定対象建物 概要	建設年度 S56年度 構造 S造 階数 地上2階 地下1階 面積 15,877.55 m ²
判定結果通知 年月日・番号	平成31年2月18日 第18-017号議案
判定の種類	S造診断
判定結果	耐震診断報告書の内容は妥当であり、本建築物の耐震性能は比較的高いと思いますが、補強する必要があると考えます。

平成30年度 第18-017号議案
(耐震診断) 鉄骨造

伊勢崎地方卸売市場 水産・青果・中央棟

耐震診断業務委託

報 告 書

施設名 伊勢崎地方卸売市場 水産・青果・中央棟

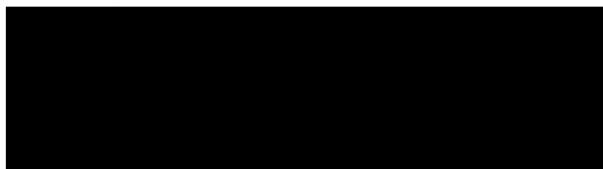
受託者



担当事務所



診断者



協力事務所

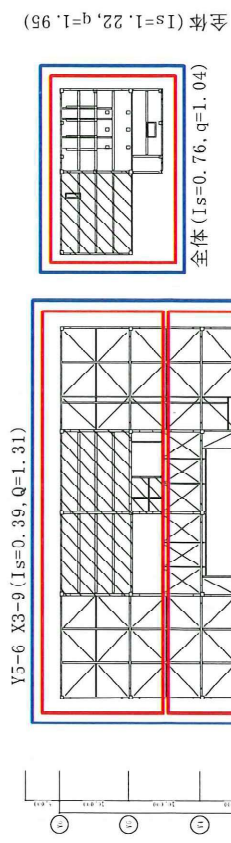


1. 診 断 者	(1) 名 称・連絡先・資格	氏名	■■■■	所属	■■■■	電話	■■■■
		一級建築士番号	■■■■	講習会受講終了番号	■■■■		
	(2) 協 力 事 務 所 情 報	氏名	■■■■	所属	■■■■	電話	■■■■
		一級建築士番号	■■■■	講習会受講終了番号	■■■■		---
2. 建 物 概 要	(1) 建 物 名 称	伊勢崎地方卸売市場 水産・青果・中央棟					
	(2) 構 造 ・ 規 模	鉄骨造 地上 2 階、地下 - 階、PH 1 階					
	(3) 建 築 年 月	昭和 57 年 設計者 ■■■■ 施工者 ■■■■					
	(4) 面 積	延床面積: 15,877.55 m ² 1階床面積または建築面積: 13124.00 m ²					
	(5) 階 高 ・ 軒 高	1階 4.89m、2階 4.89m、PH階 4.89m 軒高 14.00 m					
	(6) 桁 行 × 張 間、全 長 : m	185.00 × 60.00			同左スパン数	13 × 6	
	(7) 地 盤 及 び 地 盤 種 別	地盤	不明		地盤種別	第二種地盤	
	(8) ク イ プ	S3, RS1a, RS2b, RS1a, RS1b, RS1c, R1, その他 ()					
	(9) 基 礎	杭基礎 AC杭 杭径 400、450φ 杭長 7.00~9.00m 杭耐力 51t/本、64t/本 粘土混じり砂礫層					
	(10) 構 造 上 の 特 徴	平面 (ほぼ整形 ・ 不整形) 立面 (ほぼ整形 ・ 不整形) 構造形式 (XY方向: ラーメン架構 屋上看板: プレース架構) 極脆性柱 (有 (無)), 下階壁抜 (有 (無)), 平面柱抜 (有 (無)), Pca屋根 (有 (無)) 複合構造 (有 (無)), ソーニング (有 (無)) 特殊工法 (有 (無)) その他 (コンクリートブロック壁が部分的に使用されている。)					
3. 現 地 調 査 結 果 及 び 材 料 強 度	(1) 階 別 単 位 荷 重 (KN/m ²)	1階 KN/m ²	2階 KN/m ²	PH階 KN/m ²			
		3.24	3.31	9.39			
	(2) コ ン ク リ ー ト	既存材料 [N/mm ² (kg/cm ²)]					
		階	設計基準強度	平均圧縮強度	標準偏差	診断採用強度	
	1	21.0 N/mm ²	---	---	21.0 N/mm ²		
	(3) 鉄 骨	診断採用強度: SM50A $\sigma_y = 325 \text{ N/mm}^2$ (3300 kg/cm ²) 柱 診断採用強度: SS41 $\sigma_y = 235 \text{ N/mm}^2$ (2400 kg/cm ²) 柱、梁、ブレース ※、設計図書にJIS規格品の記載があるため、基準強度倍率は上記の1.1倍とした。					
	(4) 鉄 筋	診断採用強度: SD30 $\sigma_y = 343 \text{ N/mm}^2$ (3500 kg/cm ²) 主筋 SD30 $\sigma_y = 343 \text{ N/mm}^2$ (3500 kg/cm ²) 上記以外 ポスト柱主筋: D22 HOOP: D10@100~150 地中梁主筋: D25 S.TD13@200					
(5) ボ ル ト 等	高力ボルト F10T $\sigma_y = 1000 \text{ N/mm}^2$ (10000 kg/cm ²) 中ボルト F4.6 $\sigma_y = 235 \text{ N/mm}^2$ (2400 kg/cm ²)						
(6) 中 性 化 深 さ	平均深さ	---	mm	最大深さ	---	mm (仕上げの有無: 有 (無))	
(7) 経 年 指 標	T = --- (理由:)						
4. 診 断 基 準 及 び 使 用 プ ロ グ ラ ム	構 造 種 別	診断基準	診断回数または診断方法		使用プログラム		
	(1) 鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 造	RC基準	-----		-----		
	(2) 鉄 骨 造	防災協会	節点振り分け法 (応力比分割)		手計算		
5. 判 定 指 標 値	(1) 構 造 耐 震 指 標 ・ 強 度 指 標	Iso = 0.60 q = 1.00					
	(2) 屋 根 面 剪 断 力 係 数 換 算 値	Kn = Iso × Fes × Ai / F Kn ≥ 0.60 × Ai × Fes					
6. 仮 定 条 件 モ デ ル 化 等	<ul style="list-style-type: none"> 外力分布によるE0指標の補正係数はAiを用いて補正した。 各方向のフレームの解析には節点振り分け法及び手計算を用いて崩壊メカニズムを検証した。(応力比分割) 小梁及びツナギ梁を横補剛材として採用できるか検討を行った。 横補剛材としての剛性及び耐力が満足しているか。又、仕口部ガセットプレート、ファスナー耐力の検討を行った。 上記により横補剛材としての性能を有するもののみを横補剛材として扱った。 各部材耐力は現地調査により確定した部材及び仕口条件にて耐力を算出した。 現地調査により確認された各部材仕口状況は、同部材の調査していない部位も同一とした。 各部材はJIS規格品の記載が設計図書にあるため、基準強度倍率を1.1倍とした。 ファスナーの材質は S10T として検討した。(現地調査により強度調印確認) ユニバーサルボックス柱は柱梁面合わせ部でコーナー突出がカットされているため、全ての柱で突出部分を除いた断面性能で検討した。 1階部のRC巻き部位は四周無い箇所があるため、剛性には考慮せず重量のみの考慮とした。 ユニバーサルボックス柱内のスプリットダイヤフラムは、溶け込み溶接にて施工され溶接欠陥も無いためパネルゾーンは完全なものとして検討した。 梁端フランジに設置されたカバープレート及び水平プレートによる耐力は無視して検討した。 角型鋼管及びH型鋼柱共に、アンカーボルトは柱内部に配置されており柱脚曲げ耐力は小さい。 柱脚調査が出来なかったため上記を含めピン柱脚として扱った。 中2階部のH形柱ダイヤフラムは存在するが、隅肉溶接のためダイヤフラムは不完全として扱った。 X方向 床スラブによりメイン架構柱に地震力が伝達可能として検討を行った。 Y方向 C18、G14で構成されるラーメン耐力と負担地震力を検討した。 尚、本体検討に於いて中2階の地震力は1/2を1階地震重量に加算して検討した。 Y6通り側X12-13間の隣接上屋(冷蔵庫上屋)は診断対象外であるが、片持ち梁に取り付いているため地震力の考慮はX方向では上屋の半分をY6通り、Y方向では上屋の全重量をX12とX13通りに負担させた。(尚、片持ち梁の検討に屋根による軸力を考慮した。) PH上部の空調室外機及び看板の水平震度は KH=1.0 とした。又、高架水槽の水平震度は KH=1.5 とした。 (アンカーボルトの定着は完全なものとして扱った。) 						

7. 診断結果一覧	(1) 屋根面の剛床仮定		桁行方向	屋根ブレースにより地震重量伝達が可能であることを検証した。(RCスラブ部は省略した)													
	(2) 補強の必要性		梁間方向	同上													
			桁行方向	Is値が判定指標値を下回るため補強が必要		決定要因： フレーム耐力不足											
			張間方向	Is値が判定指標値を下回るため補強が必要		決定要因： フレーム耐力不足											
	【Bランク】 Iso=0.60	診 断 時	方向	ゾーン	構造種別	階	診 断 結 果			判定	決 定 要 因						
							Is (Kv=Q _u /W)	F _u	q			F _{es}					
							水平面	S	2			0.35	1.20	—	—	NG	ブレース仕口 → Y0-4とY5-6でゾーニング
								S	1			0.37	1.20	—	—	OK	ブレース仕口
							全体	S	PH			0.76	2.90	1.04	1.000	OK	梁曲げ、パネル曲げ
							Y5-6 X3-9	S	2			0.39	1.20	1.31	1.000	NG	梁曲げ、梁継ぎ手曲げ
Y0-4 X3-9							S	2	1.62			1.20	5.42	1.000	OK	梁曲げ	
全体(参考)							S	2	0.56			1.20	1.86	1.500	NG	梁曲げ、梁継ぎ手曲げ	
Y0-6 X0-9							S	1	0.47			1.20	1.57	1.000	NG	柱曲げ、梁曲げ、梁継ぎ手曲げ	
Y0-6 X10-15							S	1	0.81			1.20	2.70	1.000	OK	梁曲げ、柱曲げ	
※、屋根ブレースの全体的な荷重伝達が不可能のためゾーニング値を採用した。																	
【Bランク】 Iso=0.60	断 時	方向	ゾーン	構造種別	階	診 断 結 果			判定	決 定 要 因							
						Is (Kv=Q _u /W)	F _u	q			F _{es}						
						水平面	S	1			0.06	1.20	—	—	NG	ブレース仕口 → X0-2とX3-9でゾーニング	
						全体	S	PH			1.22	2.50	1.95	1.114	OK	梁曲げ	
						全体	S	2			1.14	1.20	3.82	1.000	OK	柱曲げ、梁曲げ、梁継ぎ手曲げ	
						X0-2	S	1			1.02	1.00	4.08	1.000	OK	柱曲げ、梁継ぎ手曲げ、X1通りY6部梁端溶接欠陥	
						X3-9	S	1			0.52	1.20	1.75	1.000	NG	柱曲げ、梁曲げ、梁継ぎ手曲げ	
						X10-15	S	1			0.71	1.20	2.38	1.000	OK	柱曲げ、梁継ぎ手曲げ	
						X0-9(参考)	S	1			0.48	1.00	1.92	1.000	NG	柱曲げ、梁継ぎ手曲げ、X1通りY6部梁端溶接欠陥	
						X2A	S	中2			0.85	1.20	2.86	1.000	OK	パネル曲げ F=4.00→上階F値を考慮して F=1.20	
X9A	S	中2	0.71	1.20	2.38	1.000	OK	パネル曲げ F=4.00→上階F値を考慮して F=1.20									
※、1F X0-2ゾーン、X0-9ゾーンはX1通りY6部梁端溶接欠陥のため、F=1.00とした																	
※、屋根ブレースの全体的な荷重伝達が不可能のためゾーニング値を採用した。																	
8. 診断結果概要	桁行方向:																
	PH階は梁曲げ(FD)、パネル曲げにて決定したため、靱性指標値 F=2.9を採用した。																
	2階は梁曲げ、梁継ぎ手曲げにて決定するため、靱性指標値 F=1.2を採用した。																
	1階は柱曲げ、梁曲げ、梁継ぎ手曲げにて決定するため、靱性指標値 F=1.2を採用した。																
	メカニズムは梁継ぎ手曲げにて殆どの位置でヒンジが発生しており、横補剛耐力による影響は少ない結果となっています。																
	2階でY5-6 X3-9ゾーンのIs値、1階でY0-6 X0-9ゾーンのIs値が不足しています。																
	2階はY5-6通りで3階接点の心力比分割にてPH階柱に多く分配され2階の柱耐力が小さくなっており且つ、既存計算書の地震力の分布は旧耐震の震度法を採用しているため判定値が低くなっているものと思われる。																
	1階はX3-9間の多層部で地震重量が大きく柱高さが高いことにより判定値が低くなっているものと思われる。																
	張間方向:																
	PH階は梁曲げ(FC)にて決定したため、靱性指標値 F=2.5を採用した。																
2階は柱曲げ、梁曲げ、梁継ぎ手曲げにて決定するため、靱性指標値 F=1.2を採用した。																	
1階は柱曲げ、梁曲げ、梁継ぎ手曲げにて決定するため、靱性指標値 F=1.2を採用した。																	
尚、1階X0-2ゾーンはR1G1梁、X1@Y6部に於いてフランジ溶接欠陥を考慮した梁端耐力より決定している。(F=1.0)																	
メカニズムは梁継ぎ手曲げにて殆どの位置でヒンジが発生しており、横補剛耐力による影響は少ない結果となっています。																	
1階でX3-9ゾーンのIs値が不足しています。																	
1階はX3-9間の多層部で地震重量が大きく柱高さが高いことにより判定値が低くなっているものと思われる。																	
その他:																	
1階はX9通りの片持ち梁とX9-10間の大梁との接続がルーズホールとなっているため構造的にEXP.1があるものとして別棟として検討した。(XY方向共)																	
屋根ブレース耐力が不足しているため、全体値を採用できずゾーニング値を採用している箇所があります。(X方向 1、2階、Y方向 1階)																	
高架水槽架台耐力が不足しています。																	
PH階屋上看板はX方向の耐力が不足しています。																	

9. 所見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1階X7@Y6部のG5梁継ぎ手ウェブファスナーで1本のピンテールが残っているため、ファスナーの再締め付けが必要です。 ・ 屋上目隠し壁及び高架水槽架台の屋外鉄骨部に点錆、浮き錆、錆タレが多く見られます。 又、青果卸売市場は南側が解放のため、外部の底部位を含めて浮き錆、塗装の剥離が目立っています。 その他の部位は青果卸売市場のような顕著な浮き錆や塗装の剥離は確認できませんでした。 尚、屋上の高架水槽架台、看板鉄骨、屋上階段は錆の発生が顕著であり、錆タレ、若干の減圧、塗装の剥離等が多く見られました。 全体を含め錆止め及び塗装補修の必要があります。 ・ R2階X9@Y6部調査の際に水平ブレースから設備ダクトチャンパーが吊られており、水平ブレースに大きな撓みが生じているため対策が必要です。 ・ 天井下地は大梁、小梁、RCスラブ、折版から吊りボルトにより吊られており振れ止め等は存在しないため詳細な調査により必要があれば天井の改修が必要です。 (天井は1階X2-X10間、2階の全て、PH階階段部に存在しています。) ・ コンクリートブロック壁は頂部梁が存在する部位に於いても溶接不足等の定着不良となっていた。 又、天井部までの積み込みのみで頂部定着されていない箇所もある。 1階付属店舗部ではスラブ沈下に伴い定着筋が上部鉄骨から破断しています。 上記状況によりコンクリートブロック壁は全て改修する必要があります。 ・ PH屋根上部に空調室外機及び高架水槽が存在しており、空調室外機のアンカーボルトは不明であり現在使用していないため空調室外機は撤去が必要です。 又、、高架水槽は鉄骨架台との接続耐力が不足しているため補強が必要です。 (柱脚アンカーボルトの建物躯体への定着状況の詳細な調査も必要です。) ・ 尚、高架水槽鉄骨架台のY方向で耐力が不足しているため補強が必要です。 ・ 屋上看板は大地震時検討(Ai=1.00、KH=1.0)及び風圧時検討の結果、X方向で判定指標値を満足していないため補強が必要です。 (柱脚アンカーボルトが健全なものとして検討しているため、補強時にはより詳細な調査が必要です。) ・ 上記冷却塔、屋上看板、高架水槽の基礎は躯体スラブとの定着状況は不明であり且つ、スラブと鉄骨梁の接続状況(梁上スタット 19φ@200)を考慮すると、大きな引き抜き力に対して基礎とスラブ定着部及びスラブと鉄骨梁部の損傷が懸念されます。 ・ 北側隣接上屋(X12-13間)を保持する片持ち梁の耐力は満足しているが、間柱等の補強を行うことが必要です。 ・ 柱脚部土間コン下ベースプレートのコンクリート埋設状況及び上階スラブ受梁スタット施工の有無の確認を補強時に調査する必要があります。
-------	--

現地調査による不適切箇所	
建物外観	北側X12-13間に隣接上屋が存在し、片持ち梁に取り付いている。
建物内観	----
天井	天井下地は大梁、小梁、RCスラブ、折版から吊りボルトにより吊られており、振れ止め等は存在しない。
柱	柱梁面合わせの箇所です柱コーナー部突出がカットされている。
梁	超音波探傷検査に於いてX1通りY6端のフランジ溶接に欠陥が見られる。 X7通りY6端継ぎ手のウェブファスナーで1本のピンテールが残っている。(緩みは無い)
土間スラブ	X5-X7間Y0-Y4間に於いて地中梁間のスラブ沈下が見られる。
鉄骨部錆	青果卸売市場は南側が解放のため、外部の底部位を含めて浮き錆、塗装の剥離が目立っている。 屋上の高架水槽架台、看板鉄骨、屋上階段は錆の発生が顕著であり、錆タレ、若干の減圧、 塗装の剥離等が多く見られる。
ブレース	R2階X9@Y6部調査の際に水平ブレースから設備ダクトチャンパーが吊られており、水平ブレースに大きな撓みが生じている。又、当該部の水平ブレース端部ファスナーで余長が不足している。
CB壁	配筋は縦横D10@400で配筋されているが、鉄骨梁への定着不足が見られる。又、上部に鉄骨大梁 小梁が存在しない箇所は天井レベルまで積まれているのみで頂部固定されていない。



ゾーニングプラン図

X方向

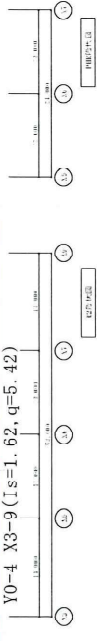
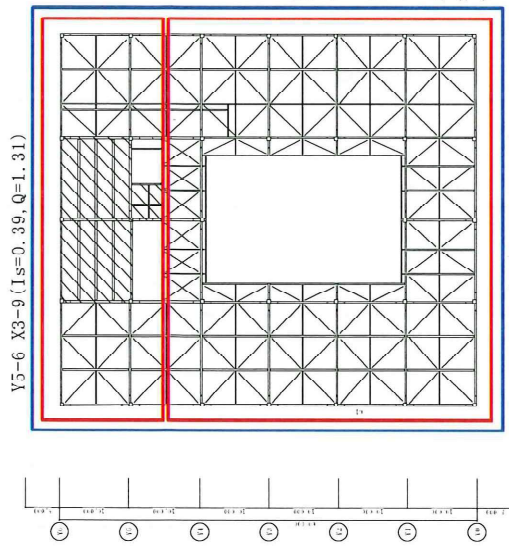
Y方向

2階 X方向

Y5-6 X3-9 : Y5-6ゾーンの地震力をY4-5間屋根ブレースでY0-4部に伝達不可能のため
 Y0-4 X3-9 : Y5-6ゾーンの地震力をY4-5間屋根ブレースでY0-4部に伝達不可能のため

1階 X方向

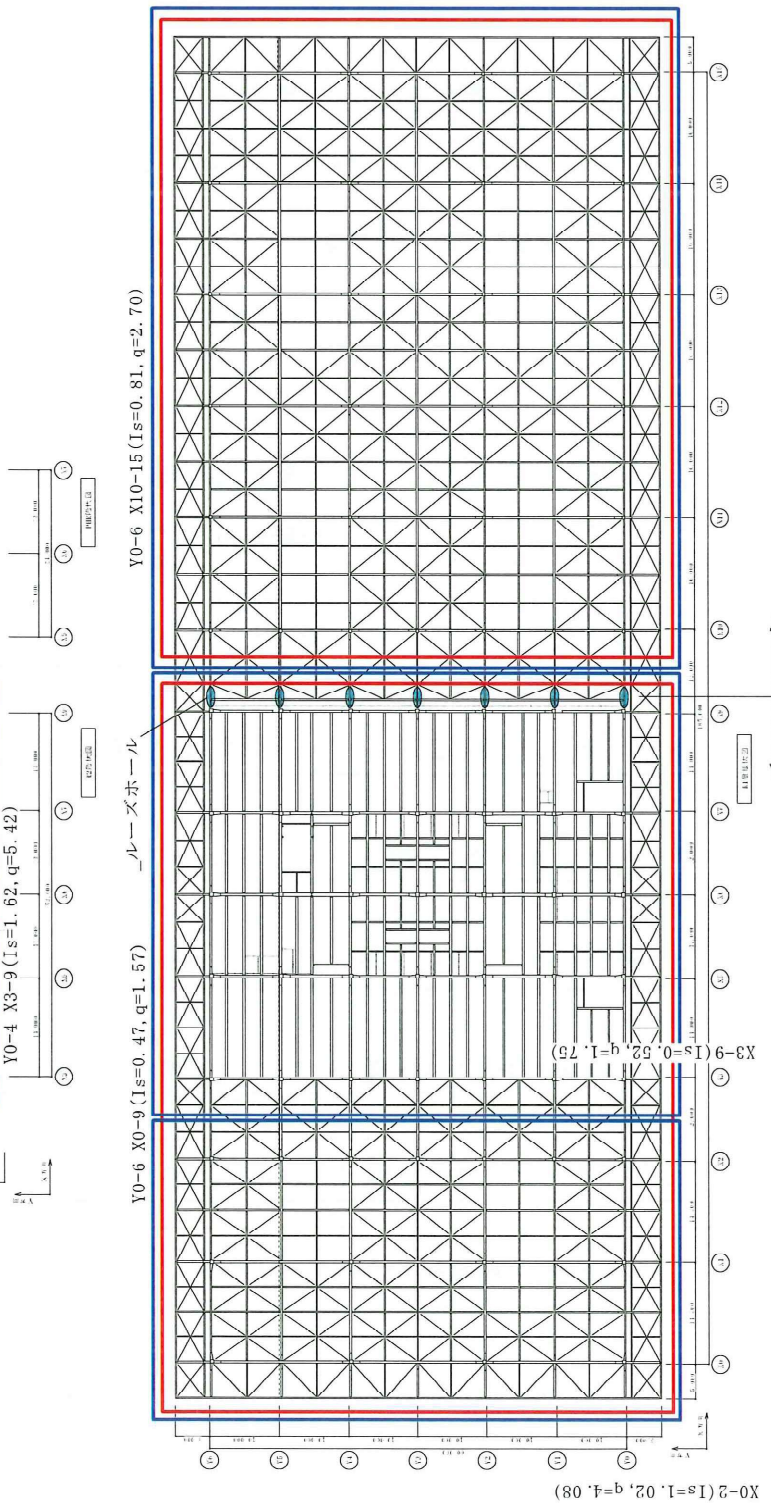
Y0-6 X0-9 : X9-10間のルーズホールにてX10-15部と分割
 Y0-6 X10-15 : X9-10間のルーズホールにてX0-9部と分割



X0-2 : X3-9の地震力をX2-3間屋根ブレースでX0-2部に伝達不可能のため
 X3-9 : X3-9の地震力をX2-3間屋根ブレースでX0-2部に伝達不可能のため
 X10-15 : X3-9の地震力をX9-10間屋根ブレースでX10-15部に伝達不可能のため

1階 Y方向

X10-15 (Is=0.71, q=2.38)



ルーズホールによりEXP. Jとして別棟として扱う (X, Y方向共)

建築確認証明申請書

平成 30 年 12 月 26 日

伊勢崎市長 五十嵐 清隆 様

申請者
住 所
氏 名
電話番号



耐震診断 に使用したいため

昭和 55 年 10 月 28 日付、確認済番号 3032 号

で確認済を受けた建築計画（又は建築物）について、下記の事項が
確認済内容等と相違ないことを証明してください。

記

- | | | | |
|------------------|------------------------------|----------------|------|
| 1. 建築主の住所氏名 | 伊勢崎市今泉町2丁目410
伊勢崎市長 下城 雄索 | | |
| 2. 建築場所 | 東村大字東小保方字鬼ヶ島5516 外97筆 | | |
| 3. 用途及び構造 | 卸売市場 | 鉄骨造 | 地上2階 |
| 4. 延べ面積及び工事種別 | 17464.33 | m ² | 新築 |
| 5. 確認済証年月日及び番号 | 昭和 55 年 10 月 28 日・第 | 3032 | 号 |
| 6. 計画変更年月日及び番号 | 昭和 - 年 - 月 - 日・第 | — | 号 |
| 7. 検査済証交付年月日及び番号 | 昭和 - 年 - 月 - 日・第 | — | 号 |

上記のとおり相違ないことを証明する。

検査済証無し

平成 30 年 12 月 26 日

伊勢崎市長

五十嵐 清隆



平成 30 年度 建築物耐震診断判定委員会
(判定部会 2)

耐震診断・補強報告書変更・訂正事項確認書

No.

平成 30 年度 判定委員会 第 18-017 議案		平成 3 1 年 0 1 月 2 9 日(火)		判定又は 指導回数	第 1 回
業務区分	診断・補強	診断 担当者	氏名	訂正年月日	印
		連絡先	mail	2019. 01. 30	
施設名称	伊勢崎地方卸売市場 水産・青果・中央棟	担当判 定委員	氏名		
		担当 書記	氏名		
指導事項及び質問事項		ページ	対応方針及び回答		
1) 北側冷蔵車上屋建物の耐震方針を記載してください。		概要 P. 6	診断対象外として負担軸力及び負担地震力のみ考慮した旨の コメントを追記しました。		
2) 所見にフレーム耐力は殆ど梁継ぎ手耐力にて決定して いるため、横補剛耐力の影響は小さい旨のコメントを 記載してください。		概要 P. 8	概要所見及び総合所見にコメントを追加しました。		
3) 屋根ブレース耐力が特に低い2階X方向の検討重量や 耐力の扱いについて記載してください。又、図を追加 してください。		概要数値 P. 225～	検討重量の再確認と採用 Is 値を 0.6 に修正しました。又、 検討図を追加しました。屋根ブレースの応力比は X 方向 2F 0.06→0.35、Y 方向 1F 0.06 になりました。		
4) ゾーニングした部位は参考として全体値を記載して ください。		概, P11, 12 P. 221, 224	ゾーニングした部位は参考値として全体値を記載しました。 (X 方向 2F, Y 方向 1F X0-9)		
5) ゾーニング図にルーズホール位置を明記して、建物 的には別棟として検討した旨を記載してください。 又、ゾーニング範囲に Is 値と q 値の記載をしてくだ さい。		P. 6, 7 概要	ゾーニング図にルーズホール位置を記載し、建物的には別棟 とした旨の記載をしました。又、ゾーニングごとの Is 値と q 値を記載しました。		
6) 柱脚部土間コン下ベースプレートのコンクリート 埋設状況及び上階スラブ受梁スタット施工の有無の 確認を補強時に調査する旨のコメントを記載して ください。		概要所見 P. 8 P. 143	左記の内容を補強時に調査する旨のコメントを追記しまし た。		
7) 鉄骨の詳細図と現地調査では、X9 通りは EXP. J と なりません。元の構造計算書ではどのように なっていますか。		概要 P. 6	元の構造計算書でも、EXP. J があるものとして、別棟にて 設計されていました。耐震診断もこれに準じて、EXP. J が あるものとして別棟にて計算しました。		

注) 案件ごとに1ファイルとする。ファイル名は右例を参考につける。[例 17-4-2 判定訂正確認書.doc 年度:19 回数:4 議案番号:2]



平成 30 年度 建築物耐震診断判定委員会 (判定部会 1)

耐震診断・補強報告書変更・訂正事項確認書

No.

平成 30 年度 判定委員会 第 18-017 議案		平成 30 年 12 月 19 日 (水)		判定又は 指導回数	第 1 回
業務区分	診断 ・ 補強	診断 担当者	氏 名 [REDACTED]	訂正年月日	印
		連絡先	[REDACTED] mail [REDACTED]	2019.01.11	
施設名称	伊勢崎地方卸売市場 水産・青果・中央棟	担当判 定委員	氏 名 [REDACTED]		
		担当 書記	氏 名 [REDACTED]		
指 導 事 項 及 び 質 問 事 項		ペー ジ	対 応 方 針 及 び 回 答		
1) 鋼材が JIS 規格品であるかを図面記載等で確認して JIS 材であれば診断用強度を 1.1 倍できるものではありませんか。又、検査済み証があるかを確認しておいてください。		P. 5 概要末	設計図書の特記仕様書に鋼材は JIS 規格品、ボルトは特殊高力ボルトの記載があるため、強度を 1.1 倍して再検討しました。又、確認申請の提出はありますが検査済み証は存在していません。		
2) 両方向の判定値が小さいため理由を記載してください。		概要 P. 11, 12	概要結果概要、結果表に判定値が判定指標値を下回る部位の理由を記載しました。		
3) 旧耐震の建物ですが、建設時が新耐震設計の施行年度に近いので既存計算書で地震力の分布がどのようになっているか、確認しておいてください。		P. 5	既存計算書の地震力の分布は、旧耐震の震度法を用いていました。(PH 階は C=0.3)		
4) 実態調査図に柱脚部が記載されていないため、追記してください。		P. 143	設計図書及び施工図から想定として代表柱部を追加致しました。(調査できない理由も記載しました。)		
5) 北側別棟は用途等を具体的に記載して長期、地震、片持ち梁検討をどの様に行っているかコメントしてください。		P. 2 P. 6 P. 249~	隣接棟は冷蔵庫の上屋であることを記載しました。又、長期地震時に扱いを記載しました。 片持ち梁の検討を該当箇所を含め追加しました。		
6) 現地調査により判明した、不適切な部位をわかりやすくまとめてください。(例えばリスト形式などで表記)		概要 P. 4	調査により判明した不適切部位をリスト形式にて記載しました。		
7) 大梁の横補剛材の間隔は横補剛材に使用する小梁の横補剛材として必要な耐力及び剛性を考慮して検証してください。		P. 175~	大梁のツナギ梁耐力及び剛性を検証した結果、必要な耐力が無いため横補剛間隔を修正してメカニズムを検討しました。		
8) 診断方針 屋上付属物 4) のコメントは具体的に記載してください。		P. 6	冷却塔、屋上看板、高架水槽の基礎は躯体スラブとの定着状況及びスラブと鉄骨梁の接続状況 (梁上スット 19φ@200) を考慮すると、大きな引き抜き力に対して基礎とスラブ定着部及びスラブと鉄骨梁部の損傷が懸念される。 上記コメントに修正しました。		

注) 案件ごとに 1 ファイルとする。ファイル名は右例を参考につける。[例 17-4-2 判定訂正確認書.doc 年度: 19 回数: 4 議案番号: 2]



平成 30 年度 建築物耐震診断判定委員会
(受付審査委員会)

耐震診断・補強報告書変更・訂正事項確認書

No.

平成 30 年度 判定委員会 第 18-017 議案		平成 30 年 12 月 7 日(金)		判定又は 指導回数	第 1 回
業務区分	診断・補強	診断 担当者	氏名	訂正年月日	印
		連絡先	mail	2018. 12. 25	
施設名称	伊勢崎地方卸売市場 水産・青果・中央棟	出席判 定委員			
指導事項及び質問事項		ページ	対応方針及び回答		
1) 現地調査に柱脚を追加してください。 柱脚の状況を確認し、柱脚耐力を考慮して メカニズム算出を行って下さい。		概要 P. 6	角型鋼管及びH型鋼柱共に、アンカーボルトは柱内部に配置 されており柱脚曲げ耐力は小さい。 柱脚調査が出来なかったため上記を含めピン柱脚として 扱った旨のコメントを概要及び診断方針に記載しました。		
2) 保有水平耐力の算出に節点振り分け法を用いており 梁耐力比分割は剛比分割をしているが、1次設計時の 応力比分割を採用する方が良いと思われるため検討 してください。		P. 5 P. 187	準備計算に用いた電算計算時の地震時応力を参考にして、 接点振り分けは剛比分割ではなく応力比分割としました。		
3) 継ぎ手の靱性指標値は 1.0 となっていますが、 2011 年改定版 S 造耐震診断指針の数値と異なってい ませんか。S 造診断指針に準拠した値としてください。		概要所見 P. 8 P. 164 P. 167	2011 年改定版 S 造耐震診断指針の数値を確認し、再計算しま した。F 値は 1.0 ではなく、1.2 となりました 梁継ぎ手の靱性指標値は再検証の結果、殆どの継ぎ手で F=1.2 となりました。尚、ピンテールが残っている箇所は 緩みは確認できなかったため S 造耐震診断指針の最小値 F=1.2 としました。 考察に再締め付けのコメントを記載しました。		
4) ユニバーサルボックスのコーナー突起部を考慮して 断面性能を検討していますか。		概要 仮定条件	ユニバーサルボックス柱は柱梁面合わせ部でコーナー突出が カットされている箇所があるため、突出部分を除いた 断面性能で検討した。→ 診断方針 柱梁部材 5)		
5) メカニズム算出のスパンは構造心間スパンにて検討 するのが基本です。 又、長期応力の影響も検証してください。		P. 252 ~267	平面解析（構造心）にて通り心の結果と比較して結果が 大きく異なることを確認しました。尚、長期応力の影響 を考慮した結果となっています。		
6) 天井についてのコメントを記載してください。		概要所見 P. 8	天井の存在する箇所を記載しました。		

注) 案件ごとに 1 ファイルとする。ファイル名は右例を参考につける。[例 17-4-2 判定訂正確認書.doc 年度:19 回数:4 議案番号:2] 様式 2-2

